

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成20年10月30日(2008.10.30)

【公表番号】特表2008-516667(P2008-516667A)
 【公表日】平成20年5月22日(2008.5.22)
 【年通号数】公開・登録公報2008-020
 【出願番号】特願2007-536704(P2007-536704)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 18/12 (2006.01)

A 6 1 B 17/34 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/39 3 1 0

A 6 1 B 17/34

【手続補正書】
 【提出日】平成20年9月9日(2008.9.9)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

近位端、遠位端及び管腔を有するカニューレと、

前記カニューレの管腔の中から展開可能な電極アレイであって、アレイの各電極が前記管腔の中で拘束されているときに送出形態を有し、前記管腔の外で拘束されていないときに展開形態を有し、前記電極アレイの前記電極が、前記電極がそれぞれ前記送出形態にあるときに近位に向き、展開形態にあるときに遠位に向く遠位端を有する電極アレイと、

前記カニューレの前記遠位端に固定されて組織に接触する動作電極であって、展開した前記電極アレイの形状とは異なる形状を有する動作電極と、
 を具えることを特徴とする切除器具。

【請求項 2】

前記カニューレが、前記アレイの各電極がここを通って展開しうる寸法の複数の開口部を具えることを特徴とする請求項 1 に記載の切除器具。

【請求項 3】

前記動作電極及び前記電極アレイが双極構成で動作することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の切除器具。

【請求項 4】

前記動作電極及び前記電極アレイが単極構成で動作することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の切除器具。

【請求項 5】

前記アレイの電極が、放物線の少なくとも一部に似た展開した輪郭を有することを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の切除器具。

【請求項 6】

前記動作電極が管状であることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の切除器具。

【請求項 7】

前記アレイの前記電極の少なくとも 1 つが、前記動作電極に対して近位に前記カニューレに沿って前記カニューレの管腔のある点から展開するよう構成されていることを特徴と

する請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の切除器具。

【請求項 8】

前記動作電極が、前記カニユーレの遠位端に対して遠位に設けられた遠位先端を有していることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の切除器具。

【請求項 9】

前記動作電極が、鋭い遠位先端を有していることを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の切除器具。

【請求項 10】

前記アレイの前記電極の各遠位部が、体内組織において展開形態のときに、前記動作電極が配置された組織の領域を規定する周囲輪郭形態で配列していることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の切除器具。